

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学童ねあらい		
○保護者評価実施期間	令和7年10月17日		令和7年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年10月17日		令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	天候・気候に関わらず体を動かしてあそぶ、活動できるスペースがある。	天気の良い日の自由あそび時間は、できるだけ屋外で体を動かしてあそぶ、活動できることを意識し教材教具などの整えを行っている。	児童が自発的にあそびに取り組めるように教材教具の充実などの環境を整えることを心がけていく（ボール、フリスビー、長縄等）。
2	事業所内にOT、ST等の専門職員が存在し、児童の見立て・具体的な支援方法等のアドバイスを得ることができる。 また、看護師の存在もありケガ等の対応時には保護者・職員ともに安心感がある。	よく転ぶ、ぶつかる等の行動特性がある児童には足の運び方（移動）、注意力の向け方などのアドバイスを受けている。 看護師からは、ケガを負った児童の事後経過観察などの要点を確認し、保護者へ状況説明と共に伝えている（頭を打ってしまった時の経過観察文書の手渡し等）。	専門職員からアドバイスを受ける等の支援を受ける時には目的や具体的な方法、実績の記入方法等詳細をしっかりと伝える。 ・年度初めに利用者へ説明・配布する「安全計画」を登録者へもれなく配布していくこと。「安全計画」については室内掲示をし、利用者が常に確認できるように整える。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子ども達と交流する機会が無い。	サービス提供時間が約2時間ほどのなかで、自由あそび・主活動を整え療育を展開していることは一つの要因と考える。	近隣に、他放課後児童クラブの存在が無い現状があり、移動時間等を考慮すると改善に向けての必要性が現状では低いと考える。
2	定期的な通信の発行、HPやSNS等の活用がされていない。	日常的な保護者とのやり取りで「よし」としている職員の姿勢があり得る。	すべての利用者に向けて公平・客観的に事業所の情報を発信する手立てとして、今後の具体的な計画を含めての整えが必要。
3	事業所の活動や行事に招待する等、地域に開かれた事業運営が図られていない。	近隣には一般住宅、高齢者の存在などがほとんどない。当事業所においても季節感のある活動は取り入れているが、行事としては位置づけていない。	設定活動として2～3か月に一度ほど、地域のゴミ拾いを行っている。散歩等で行き交う住民の方に「ありがとう」「きれいになるね」等と声をかけていただく交流の機会は存在している。